



## 【戦評シート】

平成 17年 5月 4日 (水)	協会名： 能代市 バスケットボール協会	
場 所：能代市総合体育館	記入者：糸井 大輔	
チームA 市立船橋高 84	19 - 23 20 - 11 20 - 25 25 - 23	チームB 能代工高 82

スターター	チームA：	チームB：
ディフェンス (試合開始時)	チームA： マンツーマン	チームB： ゾーン(オールコートプレス・2-1-2)

能代工は序盤から 西山が積極的に1対1を仕掛け、攻撃の起点となる。市立船橋は 久保のカットイン、 中村のポストプレイなど、インサイドを中心としたオフェンスを展開する。市立船橋は目まぐるしくメンバーを入れ替え、生きのいいプレイを見せる。 下山の3本の3P などシュート力で上回る能代工が4点リードで第1Qを終える。

第2Qに入ると、途中出場の市立船橋 高橋がオフェンスリバウンドからのシュート、速攻から1人で持ち込んでのシュート、アシストなど、流れを変える働きをし、市立船橋が一気に逆転に成功する。一方の能代工はリバウンドが取れず、反撃の糸口がつかめない。その後も次々とメンバーチェンジを繰り返す市立船橋は全く運動量が落ちず、5点のリードを奪って前半終了。

第3Qの立ち上がり、能代工は 西山が厳しいマークをかいくぐって次々とシュートを決め、再度逆転する。一方の市立船橋は3分過ぎにまたもメンバーを総入れ替えし、その直後に連続で速攻が決まり再び逆転。そこからは能代工は 下山と 西山のガードのコンビネーションで加点、市立船橋は 高橋のジャンプシュート、 中山のポストプレイなどのインサイドでの攻撃で応戦し、一進一退の攻防のまま同点で第3Qが終了。

第4Qに入っても市立船橋がインサイドで優位に立ち、先行する。対する能代工は 齋藤の速攻などで必死に食い下がるが、リバウンドが取れず苦しい展開となる。82 - 80と市立船橋の2点リードで迎えた残り45秒、 西山がファウルから得たフリースローを冷静に2本とも沈め同点。しかし市立船橋は次のオフェンスで 高橋が体勢を崩しながらもシュートをねじ込み、再び2点リードする。能代工の次のオフェンスは失敗に終わり、残り14秒で市立船橋がバックコートでスローインを得る。そのままキープして逃げ切るかに見えたが、能代工のオールコートプレスの前にそのスローインがミスとなり、今度は逆に能代工ボールのスローインとなる。能代工はすかさずタイムアウトを請求。次のオフェンスで 西山がスクリーンを使ってフリーになり3Pを放つ。しかし非情にもシュートはリングに弾かれ、そのリバウンドを取った市立船橋がそのままボールをキープして試合終了。小刻みなメンバーチェンジにより最後まで運動量の落ちなかった市立船橋が逃げ切り、優勝戦線に踏みとどまった。

注意：文面には試合内容のみご記入下さい。